

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」 における高津小学校の結果の分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和7年4月から令和7年7月末までの期間に、5年生を対象として、「実技に関する調査」と「質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、体力等の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの体力向上をめざしています。

## 1 調査の目的（全国体力・運動能力、運動習慣等調査に関する実施要領より抜粋）

- (1) 子供の体力・運動能力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力・運動能力の状況を把握・分析することにより、子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会、各国公立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力・運動能力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、子供の体力・運動能力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各国公立学校が各児童生徒の体力・運動能力や運動習慣、生活習慣、食習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

## 2 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第5学年、義務教育学校前期課程第5学年、特別支援学校小学部第5学年の原則として全児童
- ・高津小学校では、5年生 20名

## 3 調査内容

- ・児童に対する調査

ア 実技に関する調査（以下「実技調査」という。測定方法等は新体力テストと同様）  
小学校調査では、以下の種目を実施する。

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、  
50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

イ 質問調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問調査を実施する。

# 令和7年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」結果検証

## 学校の概要

高津小	学校
-----	----

児童数	20
-----	----

### 平均値

5年生	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	20m シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール 投げ	体力合計点
男子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪市	15.70	19.17	33.01	38.63	45.42	9.52	148.43	20.76	51.54
全国	15.96	19.46	33.88	40.89	47.94	9.46	150.93	21.06	53.02
女子	—	—	—	—	—	—	—	—	—
大阪市	15.40	18.33	37.58	36.86	35.15	9.83	139.41	12.67	52.58
全国	15.61	18.36	38.15	38.70	36.25	9.77	142.34	13.11	53.97

### 結果の概要

- ・男子では、握力、上体起こし、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げの種目で全国平均を上回った。女子では、握力、50m走、立ち幅とびの種目で全国区平均を上回った。体力合計点は男女とも全国平均を下回った。
- ・質問紙では「運動が好き・やや好き」の回答率が、男子では84.7%であった。また、女子では85.7%で、ともに全国平均を下回った。体育の授業については、「楽しい・やや楽しい」の回答率が、男子では92.3%、女子では85.7%であった。
- ・普段の1週間の総運動時間が60分未満の児童は男子は8.3%であった。女子は、20.0%であった。男女とも、全国平均より総運動時間が少ない児童が多いとは言えないが、運動量が少ない児童と多い児童の二極化が、進んでいる。

### これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

○ 体力向上のための取組として、運動時間と量の確保を意識し様々な運動を経験させることを心がけてきた。また、休み時間の遊び方の工夫や、計画的に運動週間（なわとび・かけあし・みんな遊び）を設け、「がんばりカード」を活用して目標達成に向けて頑張ることで体力向上をめざしてきた。その結果、休憩時に運動場に出る児童が増えたことや、「鉄棒」や「なわとび」の練習に意欲的に取り組もうとする児童が増え、休憩時間や放課後の校庭開放時に運動場で遊ぶ児童が多くなった。夏の暑い期間が長期化する傾向があり、それらも児童の体力向上に悪影響を与えており、その期間の体力向上の取組を考えていく必要がある。

● 今後取り組むべき課題としては、引き続き、体育科授業での体力向上につながるような内容の改善、休憩時間や放課後の校庭開放時にできる運動や遊びなどの工夫を進めていく。また、運動週間については、より効果的な進め方を工夫し、運動週間が終わっても、運動に対する意欲を持続させることができるような工夫を行うとともに、児童の体力向上についての保護者の関心を高めることができるような周知方法を工夫することにも取り組んでいく必要がある。まずは、運動時間の向上に努めていきたい。